

質問者 北川 道夫 議員

問 1. がんゲノム医療

(北川議員)

これまでのがん治療では臓器別に手術、抗がん剤治療、放射線治療などが行われてきました。しかし、がんは遺伝子の異常で発生することがわかったため、遺伝子変異のタイプを調べて患者ごとに最適な治療薬を選択する「がんゲノム医療」が 2019 年度から保険医療としてスタートします。国が構築したがんゲノム医療の提供体制は、がんゲノムの解析を行い、治療方針を決定する中核拠点病院が全国で国立がん研究センターなど 11 箇所、中核拠点病院と連携してゲノム検査結果を踏まえた医療を実施する連携病院が 135 箇所整備されています。

この中で京都大学附属病院等が中核拠点病院に選定されており、データベースを活用した解析結果を基に、個人ごとに最適な治療薬を提供することが可能になりました。神戸市立医療センター中央市民病院は現在京都大学附属病院の連携病院に指定されており、患者の検体の提出や、解析結果を基に治療方針を決定する専門家会議に参加し、患者への治療を行う役割を担っています。

この医療は 2019 年度から医療保険の対象となり、患者の負担軽減が進むことで、がんゲノム医療へのニーズが急激に増大することが予想されることから、国では検査体制の拡充のため、現状の中核拠点病院と連携病院の間に、全国約 30 箇所程度の拠点病院を指定すると聞いております。

このようにがんゲノム医療の提供体制は整いつつありますが、将来的には中核拠点病院から連携病院に対して役割の移行も想定されます。人材、技術、データ、設備投資等の将来設計も視野に入れた検討が必要であります。また、ゲノム医療中核拠点病院や製薬会社と連携して、ゲノム解析の事業や研究開発にも参画し、新たな治療法や新薬の開発にも携わるのが神戸市の役割であると考えます。

このような中で、神戸市立医療センター中央市民病院におけるがんゲノム医療への取り組みはどのようになっているのか、診断から治療までがんゲノム医療を一貫して行う、拠点病院並みの体制が必要と考えますが、見解を伺います。

(岡口副市長)

がんゲノム医療は、患者のがん組織を用いて一度に 100 種類以上の遺伝子を調べ、一人ひとりの体質や病状に合った最適な治療薬を選択する医療であり、より効果的・効率的な、がん治療法として期待されております。国においては、すべての都道府県でがんゲノム医療の提供が可能な体制づくりを目指しており、中心的な役割を担う機関として、国立がん研究センターなど 11 施設を「がんゲノム医療中核拠点病院」に指定しています。

また、委員お話のとおり、がんゲノム医療に不可欠な検査システムが保険適用される見通しであり、患者負担が軽減されることから、がんゲノム医療のニーズの増大が見込まれています。

神戸医療産業都市におきましては、中央市民病院が「連携病院」として指定されており、中核拠点病院と連携しながら、がんゲノムの検査を実施するとともに、効果的ながん治療の提供を行っております。また、遺伝子変異をターゲットにした肺がん、乳がん、胃がんなどの抗がん剤の治験なども企業と連携し実施しているところでもあります。

神戸医療産業都市推進機構においては、昨年 10 月、血液・腫瘍研究部を立ち上げ、ゲノム異常によるがんの発症メカニズムの解明や、がんの根治療法の開発に向けた研究を開始したところであ

質問者 北川 道夫 議員

ります。さらに、シスメックス株式会社・国立がん研究センターが共同で開発したがん遺伝子パネル検査システムが昨年 12 月に日本初の製造販売承認を取得するなどの成果が上がっております。

また、個々人のがんの予防・早期発見、効果的な治療法の探索がポスト「京」の重点課題となっており、現在、そのためのがんゲノムの大規模なデータ解析を見据えたアプリケーションの開発が進められております。その他、新たな治療法の開発として、白血病に対して極めて高い治療効果を示すがん免疫療法の治験用製品について、神戸医療産業都市推進機構が世界有数の製薬企業から受託製造を開始したところであります。

中央市民病院においては、第 3 期中期計画において、大学等と連携し、がんゲノム医療などの高度医療に積極的に取り組むこととしております。引き続き、中核拠点病院と連携しながら、充実したがんゲノム医療の提供を実施してまいります。また、本市として神戸医療産業都市推進機構や集積する研究機関・企業等の取組を支援するとともに、それらの一層の連携を図り、がんゲノム医療に関して、効果的な検査法や新たな治療法の開発が神戸で行われるよう、取組んでまいりたい。

(寺崎副市長)

中央市民病院は、平成 30 年 3 月には「がんゲノム医療連携病院」として指定を受けておりますが、ご指摘のがんゲノム医療中核拠点病院となるための要件としては、臨床研究中核病院であることまたは同レベルの体制が必要とされているところであります。中央市民病院では第 3 期中期計画において、「臨床研究中核病院を目指す」とともに、「大学等と連携したがんゲノム医療などの高度医療に積極的に取り組む」こととしております。

現在、臨床研究中核病院を目指し、順次、体制の強化に努めているところであり、がんゲノム検査の医学的解釈のために必要な、遺伝カウンセラー、臨床遺伝専門医等の体制についても順次整えてまいりたいと考えております。併せて、がんゲノム検査の結果に基づき、患者の治療の選択肢にもなりうる治験・臨床研究にも積極的に取り組んでまいります。